

デンマーク感動日記

レポート：杉本 陽一

第1日目：9/25（日）

- ① 澤渡夏代氏から「デンマークの一般事情」についてのレクチャーを受けました。心に残ったのはイチゴの箱詰めの話で「日本は決められた箱に規格内のイチゴのみを入れようとするが、デンマークでは、みんな違っていい、それが人間であるという考えで、人それぞれの人生がある。」この内容には感動しました。
- ② 午後からは時差ボケもあり、環境になれるために散歩や街並みを観察する目的の自由時間がありました。日本とは明らかに違いゆっくりとした時間が流れていました。
- ③ 夕食後は参加者が集まり、班編成や自己紹介などの顔合わせがあり、親睦会が開かれました。中には市議員や医師、幼稚園の園長さんも参加されていました。

第2日目：9/26（月）

- ① 朝は6時30分から時差ボケ解消目的で約1時間の散歩を行いました。坂道も多く疲れたことを思い出します。
- ② 高齢者ケア南地区センター・アスタースバイ訪問
認知症専門のグループホームで各施設内の扉に自然の描かれた絵を施すなどして認知症患者が外に飛び出す前に立ち止まるような工夫がされていました。施設内には立派なカフェなどのアメニティーがあり、また、マーサメオ方式の導入で、ビデオ作成を7日間行い、どういう支援がっているか職員全員で検討し、共有されているところに感動しました。

③ クロスタマーケンス総合保育園 訪問

どちらかというと高収入のご息が通園されていたように思います。保育方針に関しては、失敗しても咎めず成功体験を多く積ませる。自分でできることは自分でしてもらう方針でした。

第3日目：9/27（火）

① ロスキレ市 市長訪問

36歳女性 6年間就任されている市長で、すべてパワフルで歯切れよく質問に回答されていました。心に残ったのは、市民と協議して不必要と判断された箱モノ建築はせず、日本のように予算使い切りの風潮はないようでした。あくまでも市民が主役になっていました。

② 青少年余暇活動センター 訪問

日本でいう学童保育のようなもので、日本にはない本格的な遊具や乗り物があり、指導員も生徒がけがをする一歩手前まで見守り、本当に危険になれば手を貸すということに徹底されていました。生き生きとした子供たちの姿が目には焼きついていきます。

③ 夕方から夏代氏による「デンマークの子育て事情」のレクチャーがありましたが、事前学習会のおかげで沢山の質問をすることができました。

第4日目：9/28（水）

① 今日は当初の予定では終日フリータイムであったが、急遽16：00～高齢者施

設での交流会が開催され参加した。内容は高齢者の方と歌を唄ったり、ダンスをしたり飲食したりで会話はできなかったですが、楽しかったです。帰ってからは毎日行う反省会がありましたが、かなり酔っていてテンションは高かったことを覚えています。

第5日目：9/29（木）

① 森の幼稚園 訪問

園舎がバスの幼稚園で毎日20名の園児が通われています。コンセプトは一日中自然の中で遊び想像力を養うということでした。実際、たき火をしたり、木登りをしたり楽しそうに遊んでいました。また、日本でいう「やんちゃ」のようにも見えました。トイレも穴を掘り用を足すことに驚きを感じました。スタッフの給料は安いですが国からの補助があるので何とか生活は成り立っているようです。しかし、今後は教育的ではないため利用者が減少するように感じました。

② ロスキレ市補助器具センター 訪問

こちらで、デンマーク製の補助器具を多く見せてもらい参考になりましたが、日本製のほうが優れているとも感じました。デ

ンマークは手づくりで個人ライフに合った器具が多く、無料でレンタルされている点は感心しました。

第6日目：9/30（金）

① 社会精神移住施設（ソルバング） 訪問

一言でいうと立派な精神のグループホームでした。最重度とのことですが、日本と比べると育った環境が違うせいかな重度でもレベルは高かった。例としてリストカットや他害などはありませんかと質問しましたが、きっぱり「ありません」との回答でした。

これには驚きました。昼食も一緒にいただきましたが、バイキング形式で、とてもおいしかったです。日本で真似することは難しいと感じましたが取り入れていける所は参考にしたいと思いました。

② 高齢者ケアセンター（ベアナドッテンゴードン） 訪問

この施設も職員配置自体は手厚いが、施設的には日本との違いは特に感じられませんでした。この施設はレジスタンス運動に参加し捕虜の会が設立し運営、2000年にロスキレ市の運営に移行されたようで歴史を感じました。

